

- 飼料用稲は**面積拡大による収穫遅延**で、品質低下した。
- そこで、**適正面積の調整と品種による作付分散**で適期収穫の実施支援。
- 飼料用トウモロコシは**大型水田作法人との耕畜連携**で面積が徐々に拡大した。
- さらに、**播種作業の前進化と栽植密度を確保**して、単収が増加した。
- 更なる**単収増加と面積拡大**で、供給量の増加を支援する。

具体的な成果	普及員の活動内容
1 飼料用稲の品質改善と単収向上	1 飼料用稲の品質改善と単収向上
(1) 10月末収穫進捗率向上 H28;65.0% → H29;59.6%	(1) 10月末収穫進捗率向上 効率的な受託作業を図るため、 品種ごとの作付計画及び収穫作業計画 を作成支援
(2) 籾の少ない茎葉型専用品種への転換 H28;82.0% → H29;77.9%	(2) 籾の少ない茎葉型専用品種への転換 種子田栽培暦をもとに、専用品種栽培管理を改善支援
(3) 2法人の単収向上 H28;5.7ロール → H29;6.5ロール/10a	(3) 2法人の単収向上 栽培暦に沿った基本的な栽培技術を支援
2 耕種農家での飼料用トウモロコシの増産	2 耕種農家での飼料用トウモロコシの増産
(1) 単収向上 H28;2.4t → H29;3.0t/10a	(1) 単収向上 播種作業の前進化、排水不良対策、栽植密度の増加
(2) 栽培面積の拡大 H28;18.0ha → H29;23.3ha	(2) 栽培面積の拡大 大型水田作法人に対して 取組事例や収支試算を提示し 、栽培面積拡大を誘導
今後の普及活動に向けて	
1 飼料用稲の品質改善対策 適正面積調整、ほ場の団地化、コントラクターの作業能率向上	1 飼料用稲の品質改善対策 適正面積調整、ほ場の団地化、コントラクターの作業能率向上
2 飼料用トウモロコシの単収向上対策 早期播種、栽植密度増加、雑草防除徹底	2 飼料用トウモロコシの単収向上対策 早期播種、栽植密度増加、雑草防除徹底
3 耕畜連携によるトウモロコシ栽培面積拡大 作業体制強化、購入単価見直し	3 耕畜連携によるトウモロコシ栽培面積拡大 作業体制強化、購入単価見直し



収穫風景

